

産業建設常任委員会審査概要報告書

委員長 筏井 哲治

- I 開催年月日 令和 3 年 7 月 28 日（水）
II 会議時間 午後 2 時 35 分～午後 2 時 51 分
III 出席委員等 〔出席委員〕◎筏井 哲治 ○中村 清志 坂林 永喜
金平 直巳 樋詰 和子 水口 清志
金森 一郎 高畠 義一
（◎…委員長 ○…副委員長）
〔説明員〕 別紙名簿のとおり
〔委員外議員〕 なし
〔事務局職員〕 宮崎 篤生 堀田 寛之
〔傍聴者〕 なし

IV 審査の概要

1 付託議案について

議案第 101 号 令和 3 年度高岡市一般会計補正予算（第 4 号）のうち本委員会所管分

以上、議案第 101 号のうち本委員会所管分は、全会一致で、原案のとおり可決すべきものと決した。

〈 審査の過程における質疑等は次のとおり。 〉

（以下、質疑・質問内容は ○、答弁内容は △ で表示）

【議案第 101 号のうち中心市街地活性化推進事業について】

- AI カメラで得た情報をどのように利用する予定なのか。
△ 性別・年代の測定ができることから、イベント時においては、想定していたターゲット層と実際との差異や、平常時とイベント時の状況の差異を分析し、政策形成やイベント等の改善に活用していきたいと考えている。また、現在、年に 2 日間の歩行者通行量調査を実施し、その情報を公開しているが、今回収集したデータを検証し、正確なデータが得られるかを確かめたうえで、データを公開していきたいと考えている。
○ AI カメラを使用することで、様々なデータの収集・分析が可能となることから、AI カメラの積極的な活用を検討してほしい。（要望）

- AIカメラの運用方法は。
- △ 独立した専用のネットワークを構築し、その中で、それぞれ設置するカメラをつなげて、一つのサーバーにデータを集約し運用する仕組みを考えている。
- ローカル5G等の次世代通信技術を活用してはと考えるが、見解は。
- △ ローカル5Gを御旅屋通りに設けていることから、その通信環境も活かし、データ収集することとしている。
- 集約されたデータはどのような形で可視化されるのか。
- △ 基本的にはすべて数値化されたデータとなる。今回のAIカメラの導入に当たり、2種類のカメラを導入することとしており、一つは、人の顔を判定し、年代や性別を判定するもの、もう一つは、どのような人がどのようなルートを辿っているのかを色で表す「ヒートマッピング」と呼ばれる機能を持ったカメラを導入することとしている。その二つを組み合わせることで、A地点からB地点に至るルートの人の割合や、時間別、性別など、データ化された表やグラフが表示される。
- 中心市街地活性化の課題として郊外大型店への対応が挙げられるが、現在の中心市街地活性化計画の進捗状況は。
- △ 現在、第3期中心市街地活性化計画に基づいて取り組みを進めており、①歩行者通行量、②観光客入込数、③新規開業店舗数、④人口の社会増の4つを指標に進捗管理を行っている。このうち、新規開業店舗数は既に達成しているが、その他は未達の状況である。特にコロナ禍の状況にあって、歩行者通行量、観光客入込数が大きく減少し、人口は集合住宅の建設が相次いだことが増加要因となったものの、中心市街地全体では社会減が進んでいる状況である。
- 中心市街地活性化計画を進捗させる上で、ひとり勝ち状態である郊外の大型店への対応が一つのポイントになると考えるが、見解は。
- △ 中心市街地を活性化するにあたり、大規模店の影響の有無は不明であるが、近年増加しているeコマースや商業施設の郊外化の影響で、中心市街地に人が集まっていけないという状況がある。また、令和2年度から3年度にかけてコロナの影響で高岡駅を中心に観光客の方になかなか利用してもらえなかった。2年度に観光振興ビジョンを策定したが、まずはコロナ禍前の状況に戻すための施策を地道に取り組んでいくことが、今後の中心市街地の活性化に繋がると考えている。その拠点となる御旅屋セリオを中心に、人が賑わう取り組みを着実に進めることが、最終的には、まちの魅力に繋がり、中心市街地の活性化に繋がるものと考えている。
- 大型店の影響で、全国的に中心市街地の空洞化が進んでいることから、空き店舗対策や既存商店街の振興などについて、国・県の財政支援を求めるなどの対応を十分に検討してほしい。(要望)

〈 以上で委員会を閉じた。 〉

産業建設常任委員会 当局説明員（４名）

産業振興部長	福 田 直 之		
産業振興部次長	柳 原 隆		
商業雇用課長	表 野 勝 之		
観光交流課長	高 嶋 史 恵		